鳥海山・檜ノ沢（ヒノソ）

記　Ｔ野

2018年9月22日～24日
メンバー　：　Ｔ野　Ｉ崎　Ｓ田石　Ａ原

鳥海山は我々にとって山スキーではおなじみの山、しかし私自身無雪期にはまだ行ったことがなく、いつか行ってみたい！！それも折角行くならできれば沢登りで訪れてみたいと思っていた。ネットで検索すると滝が連続するビヤ沢、ゴルジュの発達した南ノコマイ沢、それに一番ヒットの多かったのが今回訪れた檜ノ沢などの記録があった。檜ノ沢はヒノソと読むらしく1/25000地図では南折川と表示されている沢で比較的易しい沢のようだ。今回は万助小屋をベースに尾根を登る仲間と一緒に訪れてみた。
では報告です。

9/21
21:30に東川口駅を出発、東武線の花崎駅・昭和ＩＣでそれぞれメンバーと合流して、小出ＩＣ近くにある道の駅「ゆのたに」で入山祝いの後仮眠。
9/22
今日の予定は万助小屋までなので急ぐことはない。天候はあいにくの雨で時間が経つほどよくなる予報なのでなおさらだ。11時頃に一の滝の登山口に到着、Ｓ田石車のメンバーと合流して11:40に雨の中歩き始める。雨は断続的に降り続き、時には結構な本降りとなる。二ノ滝コース分岐から南ノコマイ沢を見に行くと濁流ではないが凄い勢いで増水していてとても遡行できるような状態ではないように見える。明日、天気は好転する予報だがはたして沢の状態は大丈夫だろうか？心配だ。
ルートは美しいブナ林を登て行くが、万助小屋に向かうルートはやがてアップダウンのある尾根越えの道になる。エアリアマップのコースタイムは辛目で、思ったより時間がかかる。左側に明日登る檜ノ沢を見るようになるが、この辺りの檜ノ沢は側壁は低いがゴルジュになっていて水量も多く遡行は難しそうだ。

■写真上　入山日の雨のブナ林
■写真中　檜ノ沢下流部の巨岩ゴーロ
■写真下　連瀑帯最初の滝

14:40、大雨の中ビショビショになって万助小屋に到着。先客3名いてストーブが焚かれていて有難い。早速、濡れ物を脱いで乾かす。清潔で管理する方々の愛着が伝わってくるような快適な小屋だ。小屋泊まりは人が多いと制約も多く快適ではないが、ここはマイナールートなので来る人も少ないようで、山スキーの時期にも是非来てみたい小屋だ。今回、ここに泊まるのも楽しみの一つだったが思った以上に快適な小屋で大満足。これで1泊たった￥210！！本当にいいの？という感じだ。

濡れ物を干して一息ついたら宴会開始、先客とも仲良くなり楽しいひと時を過ごす。晩飯はＡ原さんプロデュースの本格的なカレーを美味しく頂く。夜は布団もあってぐっすり眠ることができた。

9/23

朝、雨は止んで星も少し出ているがまだ今一つ不安定な天気だ。ラーメンと昨日残ったカレーでしっかり朝食を食べて6:00に小屋を出発。日帰り装備なので身も心も軽い。昨日登ってきた道を少し戻り、910m付近で適当に沢に降りる。簡単に降りられたが何か雰囲気がおかしい。やけに狭いし沢が小さい。もしインゼルならこの沢を登れば本流に出るのだろうが、不安に思ってもう一本左に沢があるのでは？と思いトラバースすると、ありました！！明るい雰囲気の広い沢が・・・！！

最初は明るく広いゴーロ帯が続く。ただゴーロといっても巨岩帯といった方が良い感じで、ボルダーを登ったりルートを選んだりと結構楽しい。背後には日本海が広がりいつもの沢とはちょっと雰囲気が違って新鮮だ。

1時間ほどこのゴーロ帯を登ると**笙ヶ岳**から流れる枝沢との二俣（1135m）があり本流の右俣に入るとすぐに滝が現れる。難しい滝は全くなくグイグイ登って行ける。すぐに連瀑帯になり明るく美しい滝が連続していて楽しい。背後は日本海、行く手には草紅葉の稜線とロケーションも抜群！！

■写真上　楽しい連瀑帯！！
■写真中上　ナメもあるよ！！
■写真中下　連瀑帯最後の滝
■写真下　明るく穏やかな上流部

30分ほどでこの連瀑帯を抜けると傾斜が緩み穏やかな小川となる。この辺りの雰囲気は黒部源流を彷彿させる。イワイチョウの葉が黄葉して周りは草紅葉の山々、大きなイチゴの実が群落にな

っていて少しだがブルーベリーもある！！良いところだ。イチゴを摘まみながら平坦な小川を辿り、沢が鍋森を巻くように右に曲がるといよいよ源頭。湿地帯で池塘が散りばめられ、バックには鳥海山の稜線！！ある山岳会の沢の大御所が「日本三大源頭に入る！！」と言ったのが頷ける素晴らしい源頭だ。ここでいつまでものんびりしていたい衝動に駆られる。元気があれば稜線を目指して尾根パーティーに合流も・・・と考えていたが、そんな気はどこかに消え去り、この風景をゆっくり楽しむことにする。

檜ノ沢は、明るく美しく、難しいところや、ややこしいところも全くなく、藪漕ぎもない、イチゴは食べ放題だし、これは一言で言うなら「東北のデート沢」とも呼ぶべき沢ですね！！快適な万助小屋をベースにして楽しめば初心者にも自信を持ってお勧めできる楽しい沢です。

さて、源頭を充分楽しんだ我々は、次のビューポイント、鳥海湖を目指す。地図を見ればこの源頭から強引に藪を50mも登れば湖畔に立てるのだが無理をしないでこの源頭を高度を落とさずに歩いていけば登山道に合流するのでその方法をチョイス。全く問題なく登山道に合流する。「詰め上がった」というよりも「平坦な湿地を歩いていたら着いた」という感じで非常に快適な詰めだった。

登山道に出てひと登りで鳥海湖畔にでる。雪の時期にこの辺りで山スキーを楽しんだことがあるが、その時は、もちろん一面の雪原だった。でも鳥海湖は地形が凹んでいてその場所だけは雪原でも顕著にわかっていた。今回、水を湛えた鳥海湖は思ったより大きく背後に新山をはじめとした鳥海の山々を従え、非常に絵になる風景を見せてくれた。

尾根隊は今、どのあたりを歩いているのだろうか？我々は今日のピークを扇子森に決めたのでのんびりプランだが、尾根隊は結構ハード。今日に関しては沢パーティーがカメさんチームで尾根パーティーがウサギさんチームだ。カメさんの気持ちがよく分かった。カメさんもこれはこれで素敵ですね！！

■写真上　天国の源頭！！
■写真中上　絶景！！鳥海湖と鳥海山。
■写真中下　鳥海湖
■写真下　扇子森から見た新山

鳥海湖畔から御浜小屋までダイレクトに登るはっきりしない踏跡を辿り、御浜小屋から扇子森までは鳥海の銀座ルートで急ににぎやかになる。

さすが鳥海銀座！！景色の良い歩きやすい道だ。特に扇子森から御田ヶ原分岐までは見事な石畳の道でいったいどうやってこの大量の石畳を運んだのだろうか？扇子森の山頂でも充分憩う。千蛇谷を従えた荒々しい新山の山容が付近の草紅葉とマッチしていつまでも見飽きることがない。

さて、名残惜しいが快適な万助小屋に戻ろう。上部は美しい草紅葉の道が続く。万助道と二ノ滝道の分岐が分かりづらく、二ノ滝道の草紅葉に引かれた木道に誘い込まれたが、右斜め前方に万助道の道標が見え、間違えに気づいて戻ると沢の渡渉点が分岐になっていた。万助道は道標は倒れているし入口が草に覆われていてわかりにくいので要注意だ。ここからもしばらくは膝に優しくほとんど手を加えられていない草原の道で木道よりもはるかに歩きやすい。

しかし、快適なのはここまで。森林限界から下は、滑りやすかったり岩でゴロゴロしていたり、急だったりで非常に歩きづらい道となり消耗する。今日の行程で一番しんどい道だった。長時間歩いた後、最後にこの道を歩いた尾根パーティーはさぞ大変だっただろう。14:10に万作小屋着。沢の水でキンキンに冷えたビールが旨い！！3連休で天気も良いので今日は誰か小屋に泊まるだろうと思っていたが、結局我々の貸し切り。18:20頃へっでんで尾根隊も無事帰還。思ったより元気で安心する。今日はＩ島さんプロデュースのキムチ鍋。美味しく頂き残っているお酒でいい気持ちになり就寝。天気に恵まれ良い1日だった。

9/24

今日は下るだけなのでのんびり起床。朝食のラーメンを食べて8:00に出発。高曇りだが雨の心配はなさそうだ。初日に降られたが肝心なところで晴れたので良かった。ゆっくりのんびりブナ林を鑑賞しながら下山し10:30登山口着。温泉は八森温泉ゆりんこ（￥450）。露天風呂もあってのんびり寛げてリーズナブル、お奨めです。そして昼飯は鶴岡の回転寿し「金太郎寿し」、ここも美味しくて満足満足。帰路は渋滞もあったがそんなに遅くならずに帰京できた。

■コースタイム

9/22

一の滝登山口（11:40）～（14:40）万助小屋

9/23

万助小屋（6:00）～（6:25）檜ノ沢入渓～（7:35）連瀑帯～（8:02）最後の滝～（9:35）源頭の池塘（9:45）～（10:00）鳥海湖～（10:35）御浜小屋（10:45）～（10:58）扇子森（11:10）～（14:10）万助小屋

9/24

万助小屋（8:00）～（10:30）一の滝登山口

■写真上　下山に通った美しい草原の道

■写真下　檜ノ沢源頭の天上の楽園！！